

# 縄文薫る新名所誕生

藤森照信さん設計 新たな発想息づく 竪穴住居

## 古過庵



「古過庵」の完成を祝うセレモニー

茅野市出身の建築史家、建築家の藤森照信さん(78)が設計し、同市豊平の与助尾根遺跡隣接地に建築した藤森式竪穴住居「古過庵」の完成を祝うイベントが24日、同所であった。9月から約2カ月かけ、国内外から集まった延べ218人とともに力を合わせて作り上げた作品。ちの観光まちづくり推進機構主催のワークショップ(全9回)の参加者ら約50人が集まり、新たな発想が息づく縄文の名所誕生を喜んだ。(野村知秀)

市尖石縄文考古館に隣接し、日本で初めて縄文集落の実像を明らかにした宮坂英式さん(1887～1975年)が調査した与助尾根遺跡には、建築家の堀口捨己さん(1895～1984年)が設計したかやぶきの復元住居が4棟、骨組みのみの住居が2棟ある。

藤森さんが手掛けた竪穴住居はシラカバの樹皮ぶき、土ぶきの特徴。内径約4.5m、高さ約2.5m。地面から約80cm掘っている。樹皮ぶき、土ぶきのため、かやぶきと比べ、防水性、断熱性が高いのが特徴。中心部に炉があり、周囲の壁は樹皮で土留めし、竹の柵で覆っている。床には杉皮の



竪穴住居内で「古過庵」に込めた思いを語る藤森照信さん(中央)

「室内の暖かさだけでなく、住居全体の温かな雰囲気が好き」と語った。完成祝いでは会場でおこした火で焼いた鹿肉のステーキや鹿汁が振る舞われ、参加者が古過庵を囲んで味わい、笑顔を浮かべていた。藤森さんは「私の考えが詰まった居心地のいい竪穴住居ができた。視覚、触覚、煙たさなど全身で縄文を感じてほしい」と話していた。

「古過庵」の完成を祝うセレモニーの様子。参加者らは、古過庵の完成を祝うセレモニーに参加したという宮下美保子さん(60)＝諏訪市＝は「藤森先生と一緒に作業ができる夢のような企画だった」と振り返り、都内から3回通ったという竹内新乃さん(26)＝国分寺市＝